新・みやぎ・シー・メール第４８号（Miyagi Sea Mail）
発行：令和４年８月３日
宮城県水産技術総合センター　〒986-2135 宮城県石巻市渡波字袖ノ浜 97-6
TEL:　0225-24-0159　FAX:　0225-97-3444

2022 年の「春漁」の漁況について

環境資源チーム

1　宮城県沿岸の「春漁」

宮城県沿岸では、春季に、「春漁」と呼ばれるツノナシオキアミ及びイカナゴを対象とする漁業が行われています（図 1）。

ツノナシオキアミ（以下、イサダ）は、オキアミの仲間で、マダラ、スケトウダラ、サケ・マス類、マサバ、イカナゴなどの水産上重要な魚類や、海鳥や鯨類のエサとして非常に重要な存在となっています。イサダを対象とした漁業は、船曳網により主に３～４月に行われています。漁獲量は概ね 20,000～30,000 トンを維持してきましたが、震災後減少傾向であり、特に 2020 年は 460 トン、2021 年は 1489 トンと不漁でした（図 2）。

図 1　水揚げされたイサダ（左）とイカナゴ（右、こうなご）の写真

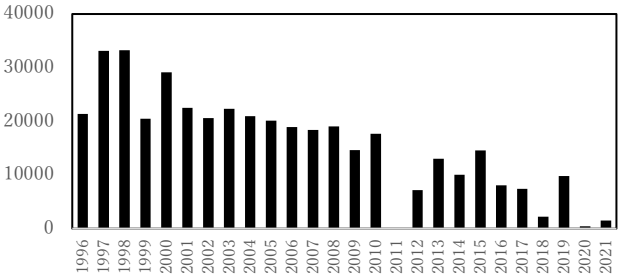

図 2　宮城県のイサダ水揚量（トン）の推移

イカナゴは、日本各地に生息する沿岸性の魚類で、移動性が小さく各地のイカナゴはその地域に固有の集団であると考えられています。夏の高水温時には砂に潜って「冬眠」ならぬ「夏眠」する珍しい生態を示します。宮城県沿岸では春季に火光利用敷網で“こうなご”と呼ばれる小型魚が、すくい網で“めろうど”と呼ばれる成魚が漁獲されています。近年、日本各地でイカナゴの漁獲量の減少が問題となっており、宮城県も例外ではなく、2009 年頃から漁獲量は減少し、2020 年、2021 年は 2 年連続で漁獲量がゼロになってしまいました（図 3）。

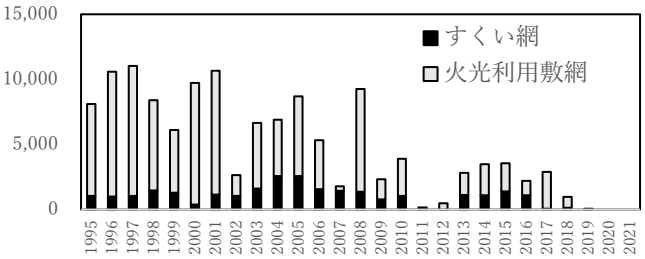

図 3　宮城県のイカナゴ漁獲量（トン）の推移

2　2022 年の「春漁」の状況

春漁の漁獲量は、春季の親潮の南下状況に影響を受け、親潮が宮城県沖まで南下し沿岸に波及すると、イサダとイカナゴの漁況に良い影響があることが知られています。親潮は、プランクトンや栄養塩が豊富であるほか、水温が低いためイサダが好む 6℃台の水温帯を形成するためです。三陸沖では近年、黒潮系の暖水の影響が大きくなっている一方で、春季に親潮が南下しない海況が続いていました。

2022 年は、久しぶりに親潮が宮城県沖まで南下・波及し（図 4）、イサダは 5,720 トン、イカナゴは 3 年ぶりに 35 トンが水揚げされました。来年以降も親潮が南下し、春漁が今年以上の盛況になることを期待します。

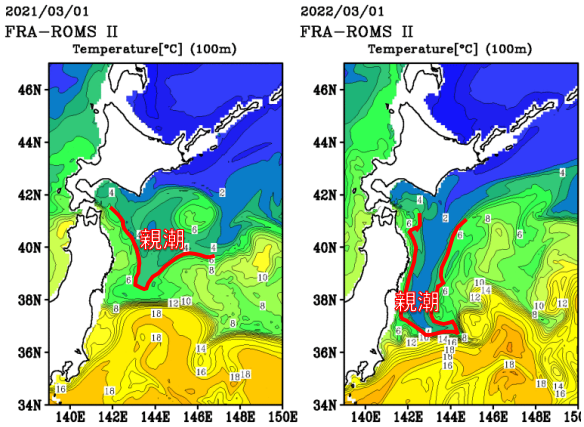

図 4　昨年（左）と今年（右）の春季海況の比較